

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

<	<	〈理事会報告 (2020 年 11 月 23 日)〉	>
<	<	■ 審議事項	>
<	<	Ⅰ 各種委員会の活動について	>
<	<	Ⅱ 第 31 回大会 (琉球大学) の大会収支報告について	>
<	<	Ⅲ 次期大会 (第 32 回琉球大学大会) について	>
<	<	Ⅳ 学会声明等の発表について	>
<	<	Ⅴ その他	>
<	<	■ 報告事項	>
<	<	Ⅵ 事務局報告	>
<	<	Ⅶ その他	>
<	<	〈臨時理事会報告 (2021 年 2 月 14 日)〉	>
<	<	■ 審議事項	>
<	<	Ⅰ 第 32 回琉球大学大会について	>
<	<	Ⅱ 研究集会について	>
<	<	Ⅲ 研究奨励賞について	>
<	<	■ 報告事項	>
<	<	Ⅳ その他	>
<	<	〈第 11 回研究集会のお知らせ〉	>
<	<	〈第 32 回琉球大学 web 大会の開催について〉	>
<	<	〈事務局からのお知らせ〉	>

理事会報告 (2020 年 11 月 23 日)

定例理事会が 11 月 23 日 (月・祝) 10 時から 12 時 30 分まで、Zoom を用いてのウェブ会議形式で開催されました。事務局 3 名を含む 29 名 (うち理事 27 名) の参加がありました。

理事会ではまず、松下代表理事より、新理事会発足後初の定例理事会の開催に係る挨拶、ならびに、本学会初のウェビナー形式で行われた秋のセミナーの開催に関するふりかえりと御礼が述

べられました。続いて、今期より新たに理事会のメンバーに就任された方々より、就任に係る挨拶が述べられました。

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 研究奨励賞審査委員会

小柳委員長より、資料に基づき、今年度の研究奨励賞の候補者推薦がなかったこと、ならびに、候補者推薦がなかったために本年度の研究奨励賞の審査が終了となったことが報告された。

次に、小柳委員長より、資料に基づき、次年度以降の選考に関して行われた研究奨励賞審査委員会での審議内容が報告された。具体的には、今年度も推薦がなかったことをふまえて、なぜ理事からの推薦も含めて他薦が出なかったのか、出にくいのかという点に関して委員会内での議論の中で出てきた意見が報告されるとともに、次年度に向けた規程改訂に関する審議を進め、次回理事会にて原案を出し、新年度からの運用に向けて審議に諮る予定であることが報告された。

続いて、安藤副委員長より、資料に基づき、日本カリキュラム学会研究奨励賞に係るこれまでの審議や規程改訂、受賞者等に関する歩みが報告された。そしてそれをふまえて、規程改訂に向けて過去の受賞者や選考に係る審議内容等に関する情報を改めて整理・検討することの必要性が確認されるとともに、研究奨励賞に関する他学会の状況や規程改訂に向けて検討すべき事項等に関する情報共有、ならびに審議が行われた。本件については、メール等も利用しながら理事会内で必要な情報の共有や意見交換を行うとともに、引き続き審議を行うことが確認された。

2. 紀要編集委員会

磯田委員長より、資料に基づき、『カリキュラム研究』第30号の編集に係るスケジュールや構成、投稿論文に関する状況（投稿論文数19編、うち、2編が会費未納、1編が締切徒過のため不受理となり、16編が査読対象となった）等が報告された。

次に、磯田委員長より、資料に基づき、『カリキュラム研究』第30号の原稿作成に関するスケジュールの確認や依頼がなされるとともに、「図書紹介」対象図書の推薦に関する依頼がなされた。

続いて、事務局より、投稿規程に示されている年会費の納入に関して、納入が求められるのは投稿の年度までか前年度までか問い合わせがあったことが報告された。また、Microsoft Wordを利用する際に、ページレイアウトで設定した1行あたりの文字数と実際の文字数に違いが出てしまうことがあるということが指摘された。以上を受けて、今後、紀要編集委員会において、規程の文言を再検討することが確認された。

3. 国際交流委員会

澤田委員長より、資料に基づき、『カリキュラム研究』における「海外カリキュラム研究情報」の執筆候補者選定と執筆依頼趣旨についての報告、および、「学会大会課題研究の運営」「前委員会からの引継事項」「〈海外カリキュラム研究情報〉執筆依頼のための執筆要領の準備」に関する報告と提案がなされた。

『カリキュラム研究』における「海外カリキュラム研究情報」の執筆候補者選定と執筆依頼趣旨については、まず、2003年から2009年はアジア諸国中心、それ以降はヨーロッパ諸国中心で

あるため、今号ではアジア諸国や北米から候補者を見つけることとなったこと、および、COVID-19 拡大状況下でのカリキュラム・マネジメントに関する事情や事例が扱われると有意義な記事になるのではないかという議論が行われたことと、これらをふまえて検討を行った結果、インドネシア教育大学のスマール・ヘンダヤナ (Sumar Hendayana) 氏に依頼を行ったことが報告された。本件に関連して、「海外カリキュラム研究情報」の原稿について日本語訳だけでなく原文も掲載するか、原文は英語以外の外国語でも認めるか、という点については、引き続き検討することとなった。

また、「〈海外カリキュラム研究情報〉執筆依頼のための執筆要領の準備」に関して、英文のガイドラインを作成したことが、その内容とともに報告された。

その後、学会大会における課題研究に関して、前委員会との役割分担についての意見交換が行われた。本件については、続いて行われた研究委員会ならびに広報・若手育成委員会の課題研究に関する方針とも関連して審議がなされた。審議の結果、運営全般について新委員会がイニシアティブをとること、具体的な内容や登壇者の決定、司会やコーディネーターの人選等については個々の課題研究の状況に応じて決定すること、紀要に掲載される課題研究報告の原稿については新委員会が担当することとなった。あわせて、司会・コーディネーターの人選に関して、可能な限り、1名は新委員会が担当することが望ましいのではないかという提案がなされ、それも念頭に置いて検討・準備を進めることが確認された。

4. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき、「次期大会の課題研究」「2021年春の研究集会」についての報告と提案がなされた。

次期大会の課題研究に関しては、趣旨や内容、登壇予定者等に関しては前委員会の方針に基づくことと、事務的な連絡や記録等については新委員会で担当する予定であることが報告された。

それとあわせて、新型コロナウイルス感染症の今後の流行状況によっては次年度も大会の現地開催が難しくなってしまう可能性があることを念頭に置いておく必要性が提案された。本件については、後の審議事項である「Ⅲ 次期大会 (第32回琉球大学大会) について」において審議された。

「2021年研究集会」については企画がまだまとまっていないため、今後、委員会内で継続して検討する方針であることが報告された。

5. 広報・若手育成委員会

根津委員長より、資料に基づき、「秋のセミナー2020」に関する報告、ならびに「次期大会の課題研究」についての報告と提案がなされた。

まず、「秋のセミナー2020」については、YouTubeでセミナーの内容を会員限定公開のかたちで配信する予定であることと、視聴に必要なURL等についてはメーリングリストで会員に連絡予定であることが報告された。あわせて、紀要に掲載予定の「秋のセミナー2020」に関する原稿案が示された。

次に、学会大会における課題研究に関して、第30回大会よりはじめられた「カリキュラムの『不易と流行』を語る」については、今後も数回は継続予定であることが報告された。

II 第31回大会（琉球大学）の大会収支報告について

二宮事務局長より、「会計途中報告」とともに、資料に基づき報告があった。第31回大会がウェブ開催となったことに伴って、例年とは異なり、「第31回大会補助費」が不要になるとともに、支出としては委託業者に支払った「第31回大会支出（除く補助費）」のみであったことが報告され、承認された。

III 次期大会（第32回琉球大学大会）について

上地理事（第32回大会実行委員会委員長を兼任）より、資料に基づき、次期大会（第32回琉球大学大会）について、「大会実行委員会組織」「大会日程」「大会の概要」「シンポジウム」についての報告と提案がなされた。

大会の概要に関しては、現地開催が不可能となった場合の代替措置については大会実行委員会から提案を行うことが難しいため、理事会でワーキンググループを設置し、そこで具体的な議論を行いたいという旨の提案がなされた。本件に関連して、現地開催の可否を決定する時期やオンライン開催の場合の業者への業務委託に関する方針、ウェビナーの開催に係る手続き等について検討することの必要性も提案され、これらに関して意見交換が行われた。審議の結果、現地開催の可否については、2021年1月もしくは2月に臨時理事会を開催し、審議のうえで決定する方針で進めることが確認された。また、ワーキンググループの設置に関しては、上地大会実行委員長および事務局で審議のうえ、改めて理事に報告を行うこととなった。

続いて、課題研究1「全国学力・学習状況調査が子どもとカリキュラムに及ぼす影響とその改善を考える——沖縄県の事例を参考に」（研究委員会担当）と課題研究2「カリキュラムの『不易と流行』を語るⅡ——学習指導要領に関連したカリキュラム研究の方法」（広報・若手育成委員会）が大会1日目の午前に、課題研究3「教育内容論としてのカリキュラム研究再考——資質・能力論的／方法論的転回後の新章へ」（研究委員会：教育内容論）と課題研究4「民主主義と国家の現状と課題——市民性教育の在り方を考える」（国際交流委員会担当）が大会2日目の午後に、それぞれ開催されることが確認された。

IV 学会声明等の発表について

二宮事務局長より、資料に基づき、学会声明等の発表に関する本年度の動きが報告されるとともに、今後の発表の迅速化を図るために、今期の理事会の「申し合わせ事項」に関する提案がなされた。具体的には、「理事の3分の2以上の賛成が得られた場合には、理事会あるいは代表理事名で発表を行う」「理事の半分以上の賛成が得られた場合には、理事有志で発表を行う」「理事の半分以上の賛成が得られない場合には、発表等は行わない」という「申し合わせ事項」の案が示され、これに関する審議がなされた。審議の結果、基本的には事務局から示された方針に沿うことが合意されるとともに、できる限り、臨時理事会等を開催して丁寧な意見交換を行いながら進めることの必要性が確認された。

V その他

今回の理事会において、学会賞や大会のオンライン開催等について他学会の動向に関する情報提供・情報共有を行いながら審議が進められたことをふまえて、他の教育学系の学会の取り組みや工夫などを互いに共有し合うネットワークのようなものを構築できると良いのではないかという提案がなされた。

■報告事項

VI 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況報告」「寄贈図書一覧」「会計途中報告」に関する報告がなされた。

VII その他

今後の理事会について、以下の日程で開催する予定であることが確認された。

① 臨時理事会

日時：2021年1月もしくは2月（※詳細については後日調整する）

※ 調整の結果、2021年2月14日（日）10時から開催することとなった。

会場：ウェブ会議のかたちで開催

② 定例理事会

日時：2021年3月（※詳細については後日調整する）

※ 調整の結果、2021年3月7日（日）10時から開催することとなった。

会場：ウェブ会議のかたちで開催

臨時理事会報告（2021年2月14日）

臨時理事会が2月14日（日）10時から12時15分まで、Zoomを用いてのウェブ会議形式で開催されました。事務局3名を含む28名（うち理事25名）の参加がありました。

■審議事項

I 第32回琉球大学大会について

二宮事務局長より、資料に基づき、「第32回琉球大学大会の開催方法」「大会スケジュール」「オンライン開催の方法」に関する提案がなされた。

開催方法について、上地理事（第 32 回大会実行委員会委員長を兼任）より、新型コロナウイルス感染症の流行に関する今後の状況を見通すことが難しいという状況が続いていること、また、例年と同様に双方向的なやり取りが実施可能なかたちで大会を開催するための準備を充分に行えるようにすることを考えて、現時点でオンラインでの開催への変更を行った方が良いのではないかということが提案され、審議の結果、承認された。

大会スケジュールについては、大会前日（2021 年 6 月 25 日（金））に理事会を、1 日目（2021 年 6 月 26 日（土））に「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「自由研究発表Ⅰ」「大会シンポジウム」を、2 日目（2021 年 6 月 27 日（日））に「自由研究発表Ⅱ」「総会」「課題研究Ⅲ」「課題研究Ⅳ」「自主企画セッション」を行うことが提案され、審議の結果、承認された。詳細については、大会校および事務局を中心に検討を行い、理事会にも諮りながら決定することとなった。また、オンライン開催に伴う参加者の疲労感の軽減を図るために、課題研究やシンポジウムにおける途中休憩の取り方も含めた進め方について、担当理事を中心に検討を行うこととなった。

オンライン開催の方法について、この数年間の大会業務を委託してきたコームラに依頼して大会専用ページを開設することが提案されるとともに、大会専用ページのイメージならびに委託に係る費用の見積りが提案された。審議の結果、提案の通りに進めることが承認された。

次に、上地理事より、資料に基づき、大会参加費および大会全体の予算案に関する提案がなされた。学会としての社会貢献という観点や理事会に係る旅費が不要となっていることなどをふまえて審議を行った結果、例年よりも参加費を下げ、「学生会員：1,000 円」「一般会員：2,000 円」「臨時会員：3,000 円」とすることとなった。

また、例年、要旨集録に掲載している広告について、大会専用ページにバナーを設置すること、および、これまでに支援くださっている企業を中心にお声がけをさせていただくことが提案された。審議の結果、その方向で進めることが承認されるとともに、具体的な方法や広告料などについては、大会校および事務局を中心に検討を行い、決定することとなった。

大会のシンポジウムについて、上地理事より、資料に基づき、提案があった。審議の結果、まず、非会員にも公開するかたちで、ウェビナーで実施することとなった。また、ウェビナーでの実施については、コームラに委託することとなった。加えて、オンライン開催参加登録手続きやセキュリティのことを考えて、参加者は大会に参加申し込み者に限定することとなった。

さらに、上地理事より、資料に基づき、「自由研究発表の Zoom アカウント」「発表資料」「大会プログラムの郵送」「発表要旨集録」に関する提案がなされた。審議の結果、自由研究発表の Zoom アカウントについては、必要数を学会で準備することとなった。発表資料については、ダウンロードや暗号化、印刷、コピー&ペーストの可否を決定することの必要性が提案され、審議の結果、ダウンロード・印刷はできるが、コピー&ペーストができないかたちで配付することとなった。大会プログラムについては、紙冊子を作成し、郵送することとなった。また、発表要旨収録については、PDF 冊子として大会ページに掲載し、紙冊子での配付は行わないこととなった。

続いて、二宮事務局長より、資料に基づき、今後のスケジュールについて、以下の①～④のかたちで進めることが提案された。

- ① 本日（2021 年 2 月 14 日）の臨時理事会において開催方法を決定し、理事会後にニューズレターおよび ML で学会員に開催方法を周知する。
- ② 2021 年 3 月 7 日の理事会において、各課題研究のテーマと登壇者、および、大会概要を

決定し、理事会後に、ニューズレターおよび ML で学会員に大会の 1 次案内を配信する。

- ③ 3 月下旬に大会専用ページを開設し、自由研究発表と自主企画セッションの募集を開始する（募集締切は 2021 年 4 月 20 日頃を予定）。
- ④ その後、発表要旨の提出締切、大会プログラムの作成と配信、大会参加者の募集開始、発表資料の提出受付および締切、大会開催という流れで進める（具体的な期日については、今後検討を進めて決定する）。

まず、①～③について、承認された。続いて、④に挙げられた発表資料の提出締切についての審議が行われた。通常の現地開催の場合において当日の発表資料の配付を行わない発表者がいることもふまえて、第 32 回大会においても発表資料の提出は任意とすることが確認されるとともに、発表資料を大会専用ページに掲載することを希望する登壇者については締切（具体的な期日は後日決定）までの提出を求めることとなった。

さらに、発表を行ったことを認めるための要件について確認することの必要性が提案された。審議の結果、「事前に発表要旨を提出していること」、および「当日の発表時間にリアルタイムで参加して発表を行ったこと」の 2 つの要件を設定することとなった。

最後に、課題研究についてはウェビナーではなく Zoom ミーティングの形式で実施することが確認された。

II 研究集会について

上地研究委員長より、資料に基づき、提案があった。

まず、テーマについては「GIGA スクール構想の課題と展望—カリキュラムを中心に—」とすることが、日時については「2021 年 3 月 21 日（日）10：00～12：00」とすることが提案され、審議の結果、承認された。

次に、実施方法について、まず、「Zoom ウェビナーで実施（定員は 500 名）」「非会員にも公開とする」ことが提案され、審議の結果、承認された。続いて、受付方法について、「研究集会の案内に印刷した QR コード（電子データの場合には URL も）から受付（ウェビナー登録）をおこなう。受付のページは研究委員会で作成」⇒「申込者には当日の参加方法を記したメールを自動で送信」⇒「申込者のリストを作成」⇒「受付ページの作成や当日の運用を担当」という手順で研究委員会が行うことが提案され、了承された。

必要経費について、登壇者への謝金、Zoom ウェビナーの契約料、運営補助のためのアルバイト代の 3 項目ならびに予算案が提案され、一部修正のうえで進めることが承認された。

III 研究奨励賞について

小柳研究奨励賞審査委員長より、資料に基づき、提案があった。主な改正点としては、「①学会入会、学会キャリア若手支援をより進めるため、現在の研究奨励賞を、学会賞とあらため、そこに優秀発表賞と研究奨励賞の 2 つを置く。」「②それを進めるため、また委員会の動きを素早くするため、学会賞委員会を設置する。新たにその運営をコンパクト&スピーディーに行い、その委員長と副委員長は別として、審査委員も毎年柔軟に変わりながら行えるようにするため（専門性

を活かし、負担も軽減するため)、学会賞委員会を設立する。そのためには「学会賞委員会規程」が必要となるが、他の委員会の規程の策定とも歩調を合わせて進めていく必要もあるため、このたびは、「学会賞に関する規程」に内包する形で提案する。」「③年齢制限を学会活動歴の制限に変更する。」の3事項が示された。加えて、それに関連する規程案および細則案が示された。審議の結果、提案に沿ってさらに検討を進めることが承認された。

改訂案の承認手続きならびに施行時期については、第32回大会の総会時に規程案を提案して審議を行い、承認されれば改訂案を第32回大会から施行するのか、あるいは第33回大会から施行するかということや、通常の大会時の総会とは別にメール等を用いて臨時総会を開催して審議を行うことも選択肢としてはあり得るのではないかといった意見が出された。以上をふまえて、今後、研究奨励賞審査委員会においてさらに検討を進め、次回の理事会において引き続き審議を行うこととなった。

例年、学会紀要に掲載されている研究奨励賞規程については、混乱を避けるため、現行のものを掲載したうえで総会をふまえて改訂される可能性がある旨を明記しておくという方法や、現行のものを掲載しないという方法があることが提案された。本件については、紀要編集委員会において検討を進めることとなった。

■報告事項

IV その他

次回の理事会について、以下の日程で開催する予定であることが確認された。

日時：2021年3月7日（日）10時～12時

会場：ウェブ会議のかたちで開催

第11回研究集会のお知らせ

日本カリキュラム学会 代表理事：松下 佳代

研究委員会委員長：上地 完治

テーマ：

GIGA スクール構想の課題と展望-カリキュラムを中心に-

趣旨：

文部科学省より GIGA スクール構想（「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」）が示され、全国の公立小中学校の全ての児童生徒にモバイルが配布され、学校のネットワ

ーク環境の整備も進められている。

GIGA スクール構想においては、「これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すこと」がめざされている。ウィズコロナ／アフターコロナの時代の到来を考えれば確かに必要不可欠な環境整備でもあり、GIGA スクール構想によってもたらされる新たな可能性に期待される部分もある。しかし一方で、それはさまざまな疑問を生み出してもいる。例えば「個別最適化」とは何なのか、「協働的な学び」とどう両立しうるのか、本当に教師の「働き方改革」になるのか、家庭環境による格差を拡大することにならないか、などの点である。

ともすれば機器活用が先行しがちであるが、それ以前に次代を担う子どもたちに求められる資質・能力及びその育成のための授業改善、カリキュラム開発が忘れられてはならないだろう。この集会では、GIGA スクール構想の可能性と課題を検討するとともに、学校や地域教育行政等がテクノロジーに振り回されることなく、テクノロジーを教育改善に活かすための方策を、カリキュラム・マネジメントを中心にカリキュラム研究の幅広い知見をもとに共に考えたい。

日時： 2021年3月21日（日）10時00分～12時00分

場所： オンライン（Zoom 利用の予定）

コーディネータ・司会：

村川雅弘（甲南女子大学）、木原俊行（大阪教育大学）

登壇者：

- ①大塚和明（文部科学省 情報教育・外国語教育課情報教育振興室 室長補佐）
- ②高橋 純（東京学芸大学准教授：独立行政法人教職員支援機構客員フェロー、
文部科学省「教育の情報化に関する手引」作成検討会委員など）
- ③中川齊史（徳島市高志小学校校長：文科省 ICT 活用教育アドバイザー、
教育情報化コーディネータ1級、総務省地域情報化アドバイザーなど）

指定討論者：

西岡加名恵（京都大学）

参加費： 無料（学会員でない方もご参加いただけます）

参加申し込みについて

参加希望者は、以下の URL から申し込みをおこなってください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_kysMAF5TT6yOvWCA0hq0WQ

第 32 回琉球大学 web 大会の開催について

2021 年度の日本カリキュラム学会第 32 回大会は、琉球大学を開催校として準備を進めてきました。しかし、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえると、現地での開催を行うことは難しいと判断し、開催校の琉球大学との協議の上、オンラインでの開催を理事会に提案することとなりました。そして、2 月 14 日に開催した臨時理事会で、第 32 回大会のオンライン開催が審議され、承認を得られました。

なお、第 31 回大会は自由研究発表のみ（しかも、口頭発表なしも可）としましたが、第 32 回大会はオンライン開催とはいえ、通常の大会とほぼ同じプログラムで実施します。詳細は追ってお知らせしますが、自由研究発表は発表資料の事前掲載を推奨するなど、現地開催と異なる部分もありますので、ML（メーリングリスト）および学会ウェブサイトでのお知らせにご注意いただくよう、お願いいたします。

会員の皆さまには、2020 年度に引き続き、オンライン開催への変更をお願いするのはたいへん心苦しいことではありますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための対応として、ご理解ご賛同をいただきたくお願い申し上げます。

第 32 回琉球大学 web 大会の予定

- ・大会日程：6 月 26 日（土）・27 日（日）
- ・第 1 次大会案内：3 月中旬に ML にて配布予定
- ・自由研究発表・自主企画セッションの申込開始：3 月末にカリキュラム学会 HP にて受付予定
- ・大会プログラム：5 月末に発送予定

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告（2020 年 10 月 28 日時点）

■会員総数 725 名（一般会員 638 名、学生会員 79 名、団体会員 8 件）

※連絡先不明者 12 名、会員一時資格停止者 32 名を含む。

【内訳】

新規入会者：11 名

退会・強制退会者：0 名

一時停止資格者：32 名

連絡先不明者：12 名

2020 年度からの新入会者：28 名（一般：19 名、学生：9 名）

2020 年 4 月 1 日からの新入会者：26 名（一般：17 名、学生：9 名）

■会費納入率（2020 年 10 月 28 日時点）

2020 年度：完納 527 名 未納 166 名 計 693 名 88.8%

2019年度：完納 632名 未納 33名 計 665名 95.0%

※連絡先不明者 12名含む、会員一時資格停止者 32名除く。

■新規入会者（2020年6月11日～2020年10月28日）11名

	入会年月日	氏名	所属機関名	会員種別	推薦者
1	2020/6/11	倉見 昇一	兵庫教育大学	一般会員	事務局
2	2020/6/12	田淵 知紗	所属非公開希望	一般会員	事務局
3	2020/6/25	佐藤 昭雄	所属非公開希望	一般会員	事務局
4	2020/6/29	友利 久美子	所属非公開希望	一般会員	事務局
5	2020/7/22	野畑 昭徳	所属非公開希望	学生会員	田中統治
6	2020/7/27	大村 高敏	福岡県立戸畑高等学校	一般会員	事務局
7	2020/7/27	山野 大星	所属非公開希望	学生会員	田中統治
8	2020/8/27	鈴木 敏則	東京理科大学大学院	学生会員	伊藤稔
9	2020/9/2	畑山 未央	東京学芸大学	学生会員	事務局
10	2020/10/15	望月 耕太	神奈川大学	一般会員	事務局
11	2020/10/16	奥田 久春	三重大学	一般会員	事務局

■退会者（2020年6月11日～2020年10月28日）0名

2. 寄贈図書一覧（2020年6月22日～2020年11月19日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
ジョン・ハッティ、グレゴリー・イエーツ（著）、原田信之（訳者代表）、森久佳、宇都宮明子、富士原紀絵、伊藤実歩子、水野正朗、津田ひろみ、矢田尚也、笹山郁生、高旗浩志（訳）	教育効果を可視化する学習科学	北大路書房	2020/8/14	2020/8/5
豊田ひさき（著）	「学びあいの授業」実践史：大正・昭和前期の遺産	風媒社	2020/7/30	2020/8/14

石井英真（著）	授業づくりの深め方: 「よい授業」をデザイン するための5つのツボ	ミネルヴァ 書房	2020/6/10	2020/9/10
石井英真（著）	未来の学校 ポスト・コ ロナの公教育のリデザ イン	日本標準	2020/9/25	2020/9/10
マイケル・フラン、ジョア ン・クイン、ジョアン・マ ッキーチェン（著）、松下 佳代（監訳）、濱田 久美子 （翻訳）	教育のディープラーニ ング	明石書店	2020/9/26	2020/9/29
大政 謙次、阿尻 雅文、北 川 尚美、青野 光子（編著）	持続可能な社会への 道：環境科学から目指す ゴール	日本学術 協力財団	2020/10/16	2020/11/6
ユーリア・エンゲストローム（著）、山住勝広（訳）	拡張による学習 完訳 増補版：発達研究への活 動理論からのアプロー チ	新曜社	2020/3/25	2020/11/6
細尾萌子、夏目達也、大場 淳（編著）	フランスのバカロレア にみる論述型大学入試 に向けた思考力・表現力 の育成	ミネルヴァ 書房	2020/12/10	2020/11/11

3. 会計途中報告（2020年4月1日～2020年9月30日）

収入の部

項目	予算額（円）	実績（円）
学会年会費	5,000,000	4,220,000
入会金	80,000	54,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	31,517
第31回大会収入(除く補助費)	0	0
寄付	0	0
前年度繰越金	5,925,622	5,925,622
合計	11,055,622	10,231,139

支出の部

項目	予算額 (円)	実績 (円)
第 31 回大会補助費	1,000,000	0
第 31 回大会支出(除く補助費)	0	169,400
第 30 号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	46,200
学会研究奨励賞費	0	0
会合費 (交通費他)	1,300,000	0
事務局経費	150,000	28,820
事務局外部委託費	1,600,000	1,243,020
ホームページ委託運用費	250,000	159,500
財) 日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	0
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	0
国際交流委員会	100,000	262
研究委員会	300,000	0
広報・若手育成委員会	300,000	0
(小計)	900,000	262
理事・代表選挙経費	300,000	353,117
予備費	200,000	0
次年度繰越金	4,595,622	8,180,820
合計	11,055,622	10,231,139

4. 令和 2 年度 (2020 年度) 分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。2020 年 10 月 28 日時点での 2020 年度会費の納入率は 88.8%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度 (2019 年度) 分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく (株) 国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000 円、学生 5,000 円、団体 10,000 円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>